



# 哲学・写真は 現実を変革しうるか？

思弁的实在論、概念工学、  
スペキュラティブ・フィロソフィーの視点から  
多角的に考える

発表者と発表内容 ※発表順

- 圓井義典：〈写真〉
- 飯盛元章：〈思弁的实在論〉
- 遠藤進平＋岸俊輔：〈概念工学〉
- 吉田幸司：〈スペキュラティブ・フィロソフィー〉

2019 **3/25** (月)

14時～16時30分(開場13時30分)

会場 | 東京工芸大学1号館1101教室

時間内出入り自由  
参加無料

公開シンポジウム2019 @東京工芸大学

「写真×哲学」

# 哲学・写真は 現実を変革しうるか？

公開シンポジウム2019 @東京工芸大学

## 「写真×哲学」

思弁的实在論、概念工学、スペキュラティブ・フィロソフィーの視点から  
多角的に考える。

「写真×哲学」の今年度のテーマは「現代哲学と現代美学の諸相」。写真家やスタイリストなど、多様なメンバーが、それぞれの関心にしたがって調査・研究し、毎月開催された定例会で議論を重ねてきました。このたびは、近年注目が集まっている、思弁的实在論、概念工学、スペキュラティブ・フィロソフィーの若手研究者をお招きし、それらの領域について理解を深めます。また、来場者のみなさまをまじえて対話し、「哲学することで、私たちの思考や社会の現実は、どのように変わるのか／変わらないのか」について考えます。

### 「写真×哲学」

東京工芸大学写真学科 圓井義典研究室 × クロス・フィロソフィーズ 共催。写真の現場にふさわしい哲学の実践を試みる団体。二〇世紀前半において、学問の専門化と細分化に警鐘をならした A・N・ホワイトヘッドの研究をとおして知り合った吉田幸司と圓井義典とが共同で二〇一五年に立ち上げる。

発表者 ※発表順

M は「写真×哲学」メンバー

#### M 圓井義典 Yoshinori MARUI

写真家。東京工芸大学准教授。展覧会に「点-閃光」(個展、PGI、2016年)、「光をあつめる」(個展、PGI、2011年)、「沖縄プリズム1872-2008」(グループ展、東京国立近代美術館、2008年)など。そのほか写真にかかわるいくつかのエッセーや論文がある。

#### 飯盛元章 Motoaki IIMORI

博士(哲学)。中央大学非常勤講師。ホワイトヘッド、ハーマンを中心に現代の形而上学を研究。翻訳=『メルロ=ポンティ 哲学者事典 第2・3巻・別巻』(白水社、2017年)、グレアム・ハーマン「オブジェクトへの道」(『現代思想』2018年1月号)など。

#### 遠藤進平 + 岸俊輔 Simpei ENDO + Shunsuke KISHI

遠藤: アムステルダム大学論理言語計算研究所論理学修士課程。  
岸: 東京大学事務職員、一橋大学大学院社会学研究科修士課程修了。(メタ)形而上学や哲学の方法論などを扱う読書会、Meta\*physicsのメンバー。遠藤は、形而上学とりわけ様相の問題、およびそれに関連しうる様相論理・非古典論理に関心がある。岸は、「哲学とは何なのか」という関心のもと、方法論の検討や概念工学としての哲学という発想の擁護に取り組んでいる。

#### M 吉田幸司 Koji YOSHIDA

博士(哲学)。日本学術振興会特別研究員PD(東京大学)を経て、現在、クロス・フィロソフィーズ(株)代表取締役社長。上智大学客員研究員・非常勤講師などを兼任。共著書に『理想—特集: ホワイトヘッド』(理想社)、*Beyond Superlatives* (Cambridge Scholars Publishing) など。

#### M 岸剛史 Takeshi KISHI

写真家。株式会社カロワークス アーカイブカメラマン。

#### M 篠田優 Yu SHINODA

写真家。ギャラリー Alt\_Medium 共催。

2019

3/25 月

14時~16時30分(開場13時30分)

会場 | 東京工芸大学1号館  
1101教室

時間内出入り自由  
参加無料



【本企画に関する問い合わせ先】

東京工芸大学 芸術学部写真学科 圓井義典研究室内「写真×哲学」事務局

Tel: 03-5371-2692 office-pp@pht.t-kougei.ac.jp

主催: 「写真×哲学」 助成: KOUGEI

東京メトロ丸の内線・都営地下鉄大江戸線  
中野坂上駅下車 徒歩約7分  
(1番出口より山手通りを初台方面に進み、成願寺を右折)